
◎議案第28号の質疑、討論、採決

○議長（斉藤 重君） 日程第1、議案第28号 平成25年度松崎町一般会計予算についての件
を議題といたします。

総括質疑を許します。

○1番（藤井 要君） いま議長の方から昨日のトレイルジャーニーの成功の話が出ましたけれども、私も朝行って、町長のあいさつを聞いておりました。聞いていた中で、非常に元気よくはつらつとしていました。こういう席の町長答弁もあのようにはつらつと元気よくやってもらえればいいなと思いましたが、今日からまた昨日のジャーニーのような答弁をよろしく願い
したいと思います。

総括ということですので、私はいつも一般質問の中でもやっておりますけれども、災害マップの関係、これは予算的には20万円で、微々たるものですが、県の想定が出てからマップを作るということになるかと思っておりますけれども、いま松崎町の中には、避難場所、避難地、どのくらいありますか。

○総務課長（金刺英夫君） まず、避難地でございますけれども、広域避難地といたしまして、松崎高校、旧中川小学校、旧岩科小学校、旧三浦小学校、それから、総合グラウンドの5カ所が広域避難地として現在指定されております。

あとは、避難場所といいますと、津波避難ビルになるかと思っておりますけれども、津波避難ビルが、環境センターと小学校、伊東園ホテル、まつぎき荘、東電ビル、森ビル、中学校、老人福祉センター、8カ所になります。

○1番（藤井 要君） いま私が質問しましたけれども、なかなか答えられない。突然言ったということもあるかもしれません。ですから、マップに私はそういうのを落とせと言っているわけですよ。那賀に行った時だって、那賀は避難場所がありますよね。大沢に行けば大沢にも何か所とか、そういうのがあるわけですよ。ですから、そういう大きなやつに落とし込めということ
を言っているわけですよ。

そして、避難タワーの関係、今度できますよね。町長は・・・、避難タワーができます。そして、たぶんマップの中に落とし込みますね。そして、全体では3つ造る予定になっていますよね。

これは7月に新しいマップが出て、各戸に配るのか、それとも、例えば改善センターのような所に置くのか、わかりません。20万円ですからね。

そうした時に、例えば、道部とか、石部とかに避難タワーが出来ました。新しいハザードマッ

プは作らないでしょう。前に私が言ったようにシールとか何かをその所に貼った方がいいんじゃないですかと、そして、5年とかいろいろ、2年でも3年でも、そして、またある程度目一杯になったり、ごちゃごちゃで汚くなったら更新するというような・・・、私はそう思って、前からそういう考えで言っているんですよ。

それを町長は、前から、いま作っても、想定が出てからやると町民が混乱するとかと言っていましたよね。今度は6月に県からまた中間報告じゃなくて、最終的に出ます。

そして、いま言ったように次から次へと出ていく時に更新はしないわけでしょう。町長。

あれからもう2年経ちますけれども、1年くらい前には私はそんなことを言っているわけですから、答弁を。

○町長（齋藤文彦君） 避難ビルのことですが、私が知っているのも、ちゃんと申します。松崎町役場、生涯学習センター、生活環境センター、松崎小学校、松崎中学校、まつぎ荘、伊東園ホテル、ホテルコスモス、東電、福祉センターです。

それで、今度のハザードマップは、20万円と非常に予算が少ないわけですが、これは役場でいろいろ研究しながら作りたいというようなことで、こういう安いことになっています。

第4次被害想定が出て、いろいろそれから新しいことが出てくると申しますが、それに付け足すようなことになると思います。

○1番（藤井 要君） 1点私が言ったのが、先ほど那賀とか、大沢とかと言いましたけれども、役場はそういうところを把握していますか。例えば、災害があった時に、これは避難地は学校とか中学と言いましたよね。そこに集まって、例えば、食料とかなんだとかやりますけれども、池代とかあそこが崩れて遮断されたとか、池代はどこどこが避難地だとかというのはなかなかわからないわけでしょう。たぶん区長さんあたりから役場の方には、今度はここを新しく作りましたよとか、そういうのは連絡があると思うけれども、やっぱりそういう中に落とし込めば、例えば、私が池代に行ったりとか、石部の方へ行ったりとかした時に、ここが避難地だというような・・・、私のような小さい頭の中ですから、覚えられるかはわかりませんが、みなさんにそういうのを見せなければ、7カ所だとか、11カ所、いま言ったって、町民はなかなか覚えていないと思いますよ。だから、そういうことを私は言っているんですよ。地区の避難地、避難場所とか、そういうのを把握して落とし込みなさいよということを言っているんですよ。もう一度答弁を。

○総務課長（金刺英夫君） ハザードマップの関係につきましては、藤井議員からかねがねいろいろご指摘をいただいておりますので、今後作成にあたりましても、現在のところ4000部作成

しまして、各家庭へ配布する予定であります。

従いまして、いま藤井議員からいただきましたようなご意見も参考にしながら今後作成とい
いましょうか、そこへと出来るだけ網羅できればと考えるので、またご意見等がございまし
たら、いただければと思いますので、よろしく申し上げます。

○議長（斉藤 重君） ほかにございせんか。

○2番（福本栄一郎君） 総括ということですが、125ページの教育施設等整備検討委員会
委員 33 万円、予算計上されていますけれども、これはちょっと教育委員会の方にお尋ねしま
すけれども、委員が何人で何回分の予算計上でしょうか。まず、1点、お願いいたします。

○教育委員会事務局長（山本秀樹君） 教育施設等整備検討委員会の委員の関係ですが、人数が
12名で、今回は5回予定をしております。

○2番（福本栄一郎君） この125ページの教育施設等整備検討委員会、予算が33万円、12名で
5回分というんですけれども、これは町長にお尋ねしますけれども、私も一般質問でやりまし
たけれども、小学校が統合されて、現在、中川、岩科、三浦の3つがそのままの状態ですよね。
幼稚園が2園化になって、旧松崎幼稚園、旧三浦幼稚園、これについて、町長は近々に結論を出
すというようなことは答弁されておりますけれど、この教育施設等整備検討委員会で教育施設
のあり方を今後どうしたらいいかを考えるわけですよ。当然町長から諮問を出して、答申を
得るわけですが、5回の回数で、これが果たしていいかどうかということです。

もう既に幼稚園問題につきましては、我われが新聞の広告も入れました。26年度には着工し
たいということで、いま場所の選定もしているようなんですけれども、これを早くしなければ
ならない。その時の答弁は、年が変わって、今年の6月に県の第4次被害想定が出てからやると
言いましたけれども、場所の選定、それから、3つの小学校の今後の活用、取壊しなら取壊し、
あるいは活用策、これも結構でしょうけれども、果たしてこの5回の、当初予算で5回で、3つ
の小学校、2つの幼稚園が果たしてできるかどうかということなんですけれども、その辺のお
考えをお願いいたします。

○町長（齋藤文彦君） 5回が適正かどうかわからないわけですが、話していくうちに足
らなくなったら、これは増やさなければいけないわけですが、今のところはこれくらい
でいいのかなと考えているところでございます。

○2番（福本栄一郎君） それから、もう1点は、第4次被害想定がどの程度で出てくるかわか
りませんが、既に新聞等には浸水域がもうかなりきているわけですよ。それを含めて、
小学校を考えなければならない。松崎中学校も考えなければならない。新聞を見ますと、下田の

市庁舎もまた振り出しに戻るといふ新聞記事が2～3日前に出ていましたね。

こういったことを考えて、小学校の位置が現在位置でいいのか、中学校の位置がいいのかも含めて、それから、3つの小学校の活用問題、2つの幼稚園の問題で、果たしてこの5回でいいかどうかということをお願いしたい。もう一度、再度お願いします。

○町長（齋藤文彦君） 先ほども申したように、5回でいいのかということがあるわけですが、いろいろ話し合っていく中で、足らなくなったら増やしていくことになると思います。

○教育委員会事務局長（山本秀樹君） この回数関係ですけれども、検討委員会の方にすべて投げて、いろいろ話し合ってもらおうというわけではなくて、その前に役場の内部でいろいろ検討しまして、それぞれたたき台を作って、そういうたたき台を検討してもらおうということになります。

ですから、学校の利用の関係とか、いろんな件との絡みとか、いろんな問題がありますので、それぞれ総合的に各課横断的な検討会を作って、それで、その中でいろいろたたき台を出し合いながら案を作って、その中で咀嚼していいプランをある程度町の方で固めると、それに対して検討委員会で協議をしてもらおうというような形になりますので、この5回の前提として、その前に内部で大いに検討するというのがあるということでご理解いただきたいと思います。

○2番（福本栄一郎君） 過日にご質問しましたけれども、80ページで、松崎児童遊園遊具設置工事72万円、これは松崎海岸の松林の中ということは答弁してもらったんですが、再度聞きませうけれども、私の案としましては、松崎小学校へと、もちろん児童遊園地ですから、場所はあれでしょうけれども、作ることはもちろん結構でございますけれども、津波対策ということを考えるならば、あそこを作った場合には避難場所が、すぐに逃げられないですよ。

そこで、私の考え方ですけれども、もしできるならば、松崎小学校、あの広い敷地の中の一角を借りてやった場合に、津波が来た場合にすぐに小学校の屋上へ逃げられる。こういった考え方がありますけれども、その辺の・・・、町長、もう一度ご答弁をお願いいたします。

○町長（齋藤文彦君） いろいろ数字が出ているわけですが、私は群馬大学の片田さんが言った「数字にとらわれるな」、「最善を尽くせ」、「真っ先に逃げろ」、こういうことが、私は一番津波に対して必要だと思いますので、こういう防災教育というのを子どもたちに徹底させていけば、そういうこともなくなるのではないかと。

ただ、地震が来たら、真っ先に逃げろということでやっていければ一番いいのではないかと考えています。

○7番（関 唯彦君） 総括ということで、まず、8ページです。債務負担行為の所ですが、

上限が 0.5 パーセントとか、0.18 パーセントという場合がありますけれども、これがどうして決まったのか、24 年度を見ているとかなり前よりも悪くなっているような感じがするんですね。ですので、もう少し融資の上限を上げてもいいのではないかと思うんですけど、これがどういう理由でこのパーセンテージになったのか、教えていただきたいと思います。

確かに、借りている人によっても金利がだいぶ上下していて、はっきり定まらないところはあるんでしょうけれど、その辺を教えてください。

それから、教育委員会にお伺いしますけれど、昨年度体罰で結構テレビ等で問題になりました。やはり議員の講習なんかに行きますと、やはりほかで起きたことは自分のところで起きていないよと思わずに、やはり自分のところでも起きるということを考えながら行動しなさいとか、視察しなさいということがあったんですけど、その辺で教育委員会は 25 年度どういうふうな形でそれをやっていくのか、その辺を教えていただきたいと思います。

それから、3 番目として、この前新聞に出ていたんですけども、給与のことです。国が 2 年間でですけど、7.8 パーセント平均で給与カットをして、そのことによって地方の方が逆に上がってしまったわけじゃないんですけども、多くなったという形で、県ですとか、いろんなところでその分をカットしないと国よりも少なくしないと地方交付税をカットしますよというのがあったんですけども、松崎町の場合は、それより上がっているということはないと思うんですけども、カットして、どのくらいのところまできているのか、教えていただけませんか。

○企画観光課長（山本 公君） 8 ページの債務負担の関係です。全部が企画ということではないわけですけども、上の小口資金ですとか、短期経営改善資金とか、緊急経済対策融資資金、その 3 点の関係を企画観光課の方でご説明をさせていただきます。

短期経営改善資金等につきましては、県の融資利率なんかもございまして、そこから町の分を引いて、最終的に年利 1.6 パーセントということの中で、700 万円を上限として 5 カ月企業の方が借りられるということの資金になっております。

県の融資の関係等もありまして、町の利率がこれまで 0.2 分をやっているということでございます。

それから、小口資金の関係につきましても、基準金利が 1.9 で、そこで町の利率を 0.18 出しまして、1.8 というところの中で、これも 700 万円、最大で 5 カ年借りられるということでやっております。

これまでの経過の中で、そのような利率にさせていただいております。金利の状況なんかも

踏まえてしたところでございます。

それから、緊急経済対策融資の関係につきましては、ご説明させていただいたかと思うんですけれども、災害の関係、東日本大震災が発生した時に中小企業災害対策資金でしたか、全額補給する分、それと今まであった緊急経済対策利子補給 0.2 補給していた分が 24 年度で終わりになってしまいますので、それをまとめた形の中で利率を 0.5 に上げて、その分を補給させていただくという形でございます。

緊急経済対策の利子より上がってはおりますけれども、災害の全額補給する分からは下がっているということにはなりませんけれども、今までより利子を上げているところでございます。

○教育長（藤池清信君） 体罰につきましては、これは、現在、国の文科省の方で 24 年中に起きた体罰等についての調査をして、25 年 4 月までに報告するように求めています、内容がこれは過去 1 年間にさかのぼって、それを全父兄と全生徒にアンケート方式で実名で答えていただくということでございます。それを待っているところですが、しかし、体罰はあってはならないわけで、これは私はやはり教師というのは職命をしっかりと考えていただきたいなと思っているところで、その辺は常づね言っているんですが、「教諭」という字は教え諭すという字を書くわけですので、それを、本当にそここのところに立ち返って、そして、やっていきたいと考えております。

○総務課長（金刺英夫君） 給与の改定関係でございますけれども、国の方は昨年から行っておりまして、職に応じまして、一番多いランクで 9.77、中間で 7.77、一般職で 4.77 パーセントと、それぞれ減額をしております。これを地方の公務員にも減額を政府の方は求めてきているわけでございますけれども、国に準じて減額というようなことで話しているわけでございます。

国の方はとりあえず、国の給与よりも多いところという形で言っているわけでございますけれども、当町のラスパイレス指数が基準になってくるわけでございますけれども、国の改定以前ですと 96.4 パーセントでございます。国が先ほどの率で改定をした場合ですと 104.3 パーセントという形で国より上回るということから、当町もその減額の対象になってくるという形になろうかと思えます。

そういった中で、まったく単純に試算してまいりますと、本年度の給与総額から先ほどの減額率、これは平均 7.8 パーセントで国の方は推定しておりますので、総額からこの 7.8 パーセントを単純に減額試算しますと、約 4600 万円くらいの金額になってまいります。これを職員 1 人あたりにしてまいりますと、32 万円からの減額というような形になろうかと思えます。ただ、

その 32 万 5000 円というのは、国の方から示しております 7 月 1 日から施行した場合の発給率といいたいでしょうか、そういった数字になっておりますので、ご理解いただきたいと思ひます。

○7 番 (関 唯彦君) 教育委員会に。私は、体罰というよりも一番問題なのは、それに伴って出てくる言葉だと思ひます。特に。少しくらい殴るといふんじやなくて、言葉によってだんだん、だんだん追い込んでいってしまうんじやないか、それが一番心配なんですね。体罰よりもそっちの方が心配ですから、その辺を充分考慮していただきたい。追い込まれて逃げ口がなくなってしまうと精神的に追い込まれてしまいます。自殺という形も出てきますので、言葉による暴力の方にできるだけ重点を置いていただきたいと思ひます。回答はいりませんけれども、これで終わります。

○議長 (斉藤 重君) ほかにございませぬか。

○9 番 (稲葉昭宏君) やっぱり予算というものは、新しい年度になって、こういう事業をやりたいたいということていろいろ財源の配分をするわけだと思ひますけれども、一つには、結局、前年度の決算を見て、むだをなくしていこうじやないかという、これは大きな反省材料の上に立って、やはり予算編成をするというのも一つの大きな意義だと思ひますね。そういうことを考えた時に、町長、振興公社の方の理事長ですから、それを含めた中の質問なんですから、どうも公社の方は収益事業ではありませんから、公益的ないろいろな事業をやる。町の方がそこへと委託をするわけなんです、もう少し私は、これはもう少し委託料を絞ってもいいんじやないかという感じがいたします。なんか、聖域みたいな感じで、そこは、手を付けるのはタブーだよというような、これは私の一方的な推測ですけども、そういう一面があるんじやないかという気がしないでもありません。

例を挙げますと、環境センターなんかもそうですけれども、これは文化的事業ですから、とにかく数字だけで収入が 110 万円だから、経費の方が 1730 万円かかっているからというわけではありませんけれども、ここらももう少し公社の方へと、町長が理事長だからね。

だけでも、会計は一般会計の方から入っているわけですから、特別会計じやない部分があるわけですから、そこらをもう少し、全体的に公社の委託で、これは予算上の数字ですから、3728 万円、これはどうせ赤がくっついてくるわけになりますけれども、これはどうしても支出するわけですから、これは一般会計の方へと圧迫するものも大変強いと思ひますね。

もう一つは、公社の方とプールの方の問題なんです、毎年、福祉も兼ねた一つの事業だから仕方がないと思ひますけれども、これはとにかく使用料が 230 万円入ってきて、2280 万円の予算を計上してありますけれども、これも温泉の方が約 600 万円入っているのかな、そうします

と、行って来いだよ、だけど、純然たる 1000 万円はこれはもう人件費も入っているわけですが、数字上ではそういった、そこらをもう少し工夫ができるんじゃないか。こんなことをしていたら、私はもう町が金がなくて大変な思いをしなければならない、そういう時期が必ず来ますよ。

それでは、落とせるところは落とす、落とせるところはどこか、これは問題は結局、人件費。かなり今では民間と格差があって、かなり給料をもらってやっているわけです。けども、こういうそこは、国家公務員あるいは人勧ということがあって、あとは、自治法なんかで守られているわけで、そこは手が付けられないということになると、やはり自分たちでやっているいろいろな事業の関係を絞っておかなければならない、これはもう近々これはなかなか町が成り立っていかない状態になると思いますよ。これは松崎町だけじゃなくてね。

そういった時には、やはりもう少し身を削る。何をするかというよりもむだを省こうじゃないかという方向へともう少し行政が目を向けるべきだと思いますよ。その点をちょっと町長、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 本当に稲葉議員の言うとおりでと思います。また、振興公社、まつぎき荘に関しても、親方日の丸というところが色濃く出ているようなところがありまして、稲葉議員が指摘されているところは、私もわかっているところですが、いろいろ職員には言うわけですが、なかなか・・・、かなり変わってきたなと私は思っているわけですが、非常に厳しいところがあります。

それで、本当に身を削らなければ、私は松崎町の財産は危機意識ですということを言いましたので、そういうことは感じておりますので、稲葉議員のそういうことを考えながら、これからもやっていきたいなと思っていますので、そのようなことは予算に反映していきたいなと思っています。

○9番（稲葉昭宏君） 今日丁度東北の大震災3.11が丁度丸二年になりますね。いろいろマスコミで騒がれたり、あるいは新聞報道なんかを見ましても、結局、復興をする時に、各自治体がなかなか国に依存をしているわけですが、国がそういう施策を執行するのにとにかく遅いと。住民がいろいろの面で困ることがある。

やはりそういう背景の中には、やはり自治体がある程度資金を持っていなければだめだろうという首長もおりますよね。

だから、私はそういうことを考えた時に、いつ来るかはわからない、災害ですから。

これはやはり町長の方も例えば、人口 7800 人のわが町ですよ。基金を全部集めても、目的

基金を混ぜても 12~13 億円ですか、やはりある程度のお金を持っている必要がある。そういった災害が起きた時に。やはりこれも大事なことだと思う。

だから、少しでもむだを省きながら、その蓄えも必要ではないかと思うわけですがけれども、町長の頭の中には、財調を含めて、独立基金も含めて、大体人口 7000 の町民の規模を考えた時に、おれたちの財布は言わば町長の財布のわけですから、このくらいはという、そういった自分の意識がありますか。

○町長（齋藤文彦君） 基金の状況を見ますと、最終見込高 13 億円、25 年度見込みで 13 億円くらいになるわけですがけれども、これは本当に少ないなと思っていますので、やっぱり自分の家庭を考えましても、やっぱり貯金がないと非常にさびしいわけですから、これを増やしていくように努力していかなければいかんと思っていますところでございます。

○8 番（一瀬寿一君） 前段の方は先ほど稲葉議員が言いましたけれども、今回の当初予算は昨年よりも若干増えたということでございますが、とりあえず、私は、一昨日皆さんから質疑がございましたが、商工費、それから、観光費とどちらが町長、観光と商工費とどちらにウエートをもっているのか、その辺を 1 点教えてください。

とりあえず、観光立町、観光が盛んな町にということをよく町長は言われているけれども、その中身、この予算の中では商工費はアップしているけれども、観光費は約 3000 万円近く下がっていますね。全体的に町の様子を聞いたり、いろいろしていくと、もう民宿も旅館もやめようかと、そして、登記所の方の司法書士の方に聞いたら、民宿関係は廃止届が相当出ておりますよというようなことも聞いております。

そういった中で、昨日のトレイルジャーニーがこれは大成功したようですがけれども、当局からの報告がなく、議長からの報告でしたけれども、その辺もちょっと教えてもらいたいことと、それと、私が考えるに、ちょっと各市町村のあれよりも松崎町はちょっと観光施策は落ち込んでいるのではないかと。後ほどいろいろまだありますけれども、先にその辺からちょっと町長にお聞かせ願いたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 私は商工会と観光協会は松崎町の元気の原動力だと思っていますので、同等と考えているところでございます。

私は、松崎町は昭和 53 年から「花とロマンのふる里づくり」をテーマにしてやってまいりました。それで、快適で美しい環境づくりというようなことで花いっぱい運動とか、コミュニティづくりの活性化、7 大イベント、歴史と文化を活かしたまちづくりで、伊豆の長八美術館とか、重文岩科学校があるわけですがけれども、私は、その「花とロマンのふる里づくり」というのは継

承して、松崎らしい田舎づくりは人づくりだと、少子高齢化を土台にしたコミュニティづくりで自分たちの住む町を良くするために自ら考え、実行していくことを促すということで、私はまちづくりを進めてきたわけですが、やっぱりその中心となるのがグリーンツーリズムとか、歴史的景観整備事業、鰻絵のまちづくり推進事業、若者のまち推進事業、花の咲くまち推進事業というのをやってきたわけです。

環境と景観と文化という、その大きな輪の中にコミュニティがあって、ここが非常に弱くなっているということで、松崎が活性化するためには、ふる里自然体験学校、グリーンツーリズム、子ども農山漁村交流プロジェクト、エコツーリズム、ジオパーク、大人の修学旅行とか、第6次産業に向けてのこと、また、低炭素社会とやってきたわけです。

松崎町はお金はあまりかけていないですけれども、それなりの成果が少しずつ上がってきているのではないかと私は思っているところでございます。

「日本で最も美しい村」連合に、松崎町がやってきたまちづくりというのが外から見てどういふふうに見えるかと、挑戦状を叩きつけるつもりで私は「日本で最も美しい村」連合に申請したわけです。それで、8月頃結果が出るそうですけれども、自分たちがやってきたまちづくりというのは、正しかったということが私は証明されると思います。

これが、第5次総合計画に全部入ってくるわけですが、松崎町は観光に対してお金は、ほかの市町に比べて少ないかもしれませんが、やるべきことはやっていると思っております。

○企画観光課長（山本 公君） 一瀬議員のご質問の中で、25年度の観光のお金が3000万円近く減になっているというお話がありましたけれども、24年度において、雲見の千貫門の遊歩道の工事の関係3000万円、あるいは案内看板、ジオの関係の看板が1000万円近くございまして、そちらの分で4000万円ほど減に、前年度とは違うということでございますので、それを差し引いても去年よりは増えているというようなことで認識はしております。

トレイルランニングの関係で、先ほど議長さんの方からお話がございましたけれども、新聞・テレビ等でご覧いただいているかと思っております。参加者が1354名の参加をいただいて、新港からスタートして、75キロ先、修善寺の独鈷公園まで目指したわけですが、一番早い方で6時間35分32秒というようなことでゴールをしたわけですが、ボランティアの方が250名参加をしまして、宿泊も1300人ほどあったということで、冒頭でいただいております。

新たなスポーツを通じた観光の展開ということの意味では非常に大きな影響があったのではないかと考えているところでございます。

○8番（一瀬寿一君） 観光においても、ちょっとしたメインのあれがちょっと見当たらないなと、南伊豆あたりでは桜に加えて、水玉の夜光るあれを川に流すとか、大変好評を得ているようですけれども、何かもうちょっとこれはという、インパクトのあるようなものを何か施策を考えた方がいいんじゃないかな。マンネリ化している桜田の花畑、これも十数年やっていますけれども、確かに、年間5万人、6万人来ているけれども、あれだけに集中していると、やはり次の手を打たないと、私は、春夏秋冬、やっぱり春ばかりではなくて、夏も秋も冬もというような考え方も必要ではないだろうか、そういうところのことを考えて、もちろんそれは商工業、観光、防災、いろいろ、みんなのあれも大事でございます。

しかし、そういう中で、やっぱり「松崎町はやっているな、あそこは」というくらいのイベントをもうちょっと・・・、7大イベントと言っていますけれども、7大イベントも大変これもちょっと、どうもさびしくなっています。いま。

そして、地元だけで、ほとんど観光客も来なくなっている。もうちょっとこの辺も工夫をするか、考えるか、やはり何といても景気が良くなないとこれはだめです。やっぱり観光が一番なのか、商工業の方が一番なのか、その辺は先ほど町長に聞いたけれども、やっぱり観光施策が一番大事だと言っている以上は、何らかのインパクトを、また、目先を変えて考えてもらわなければならない。この辺をもう一回、これは企画観光課長でもいいですけれども。

それと、温泉も私はこういう旅館とか、民宿関係で、やっぱり温泉の200万円の権利金、それを出して毎月入湯税を払っていますけれども、これも、もちろん一番大きいのはまつぎき荘が600万円近くですけれども、ほかの旅館なんかでも30~40万円払っているところもあるし、20万円くらい払っているところもある。こういうところも温泉の方が事業会計が大変いいからといって、その辺もちょっと考え直して、少しでも、例えば、期間限定でもいいから、割引してあげましょうとか、何らかの、アメとムチじゃないけれど、ひとつしてあげなければ、なんか観光業の方も町の方からそれだけの支援をしてもらっているというような期待がないと、こういうことを聞いていますので、その辺をもう一回聞かせてください。

○町長（齋藤文彦君） 隣の芝生は青く見えるという言葉がありますけれども、ほかの市町から言われると、「松崎は結構面白いことをやっている」と結構私は言われます。これはトレイルジャーニーもあれですけれども、私は、岩地でやっているシーカヤックマラソンとオーシャンスイム大会とオーシャンピクニックというのがあり、それとこのトレイルランニング、スポーツ三部作で、体験型、参加型で広めていきたいなと思っています。

私は、関議員の質問にまつぎき荘をグリーンツーリズムの総本山にしたいと言ったわけです

けれども、こういうことをぜひ松崎の港で、湾でやりたいということを考えているところでございます。

それで、松崎はどうしても体験メニューというものが少ないというようなことがありますので、一回岩地の地引網を今度松崎のこの浜で一回やるようにいま話をしていますので、近い将来地引網をやりますけれども、そういうメニューを増やしていけば、それなりのことが私はできるのではないかと考えています。

いまお客さんに「来てください」、「来てください」と言ってもなかなか非常に難しいわけで、今のお客さんというのは、インターネットで調べて、自分の趣味・趣向がはっきりしていて、本当にピンポイントで来ますので、それに対応できるようなことをしていかないと松崎の観光というのは残っていけないと思っていますので、やっていきたいと思っています。

棚田を使っているいろんな施策を打ってまして、結構お客さんにも人気がありますので、そのようなことを含めてやっていきたいなと思っています。

ただ、温泉の件ですけれども、なかなか、一瀬議員が言われるようなことをやれば本当はいいんでしょうけれども、なかなか難しいのかなと思っています。

○企画観光課長（山本 公君） ただいま町長の方からもありましたように、スポーツを通じた新たな取り組みというのは、松崎町、新しいものだとは認識しております。

これまでのものがすべて同じままでいいかというのは当然ありますので、これまでやってきているものも当然見直しをしながら進めていくというようなことでございます。

花畑のお話もございまして、いま年間に6万人くらいのお客様をお招きしていると、観光バスツアーなんかにもメニューに入っているというようなこともございますので、そういったものについては、積極的にPRしていく、あるいは売店等も観光協会さんを中心にやられておりますので、そういった中で、新たな展開も加えていくというようなことを考えております。

今まであるものを当然見直しながら、新たな展開に繋げていくというようなことで考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○生活環境課長（斉藤昌幸君） 一瀬議員のお考え、観光の振興に対する一助としての温泉料金の値下げ検討ということですが、いままではなかなかお答えすることはできませんので、また温泉会計の中で事前に検討していきたいと思ひますので、この場ではちょっと回答は差し控えさせていただきます。

○議長（斉藤 重君） ほかにございませぬか。

○2番（福本栄一郎君） 114 ページと 115 ページですけれども、114 ページの道路維持工事 500

万円、それから、115 ページの新港湾利用検討委員会委員 19 万 3000 円、これは報償費ですね。これに絡めて、最初に道路維持工事 500 万円の内訳を教えてくださいませんか。

○産業建設課長（菊池三郎君） それでは、114 ページの道路維持工事、15 節の関係です。これは、地区から要望のありました町道桑原線におきまして、一部擁壁あるいは排水施設整備を行うということで、延長 40 メートルに渡って計画をしているものでございます。

それから、115 ページの新港湾利用検討委員会の報償費の関係です。委員が 11 名おりまして、年 3 回を予定しています。当面利活用が非常に問題になって、検討しなければというようなこととございますが、先ほどから話が出ているトレイルジャーニー等の関係で利用されたり、今後どのような展開を図っていくかというようなところをまだまだ検討しなければならないのではないかと考えております。

○2 番（福本栄一郎君） 今度は町長にお伺いします。

道路維持工事 500 万円、これは私は一般質問でも言っていますけれども、地区からの要望の取扱いの件です。これは、何が何でもということになると財源が底をつきますけれども、地区から、区長さんから要望者が上がってくる。区長さんから要望書が上がってくるということは、区の役員会なり総会で、区の総意に基づいて上がってくるわけです。皆さん一日も早くやってもらいたいということが要望書の形になって、町長宛てで出て来るわけです。その優先順位というのは、どうして決めているのか。その点が 1 点と、当然負担金がかかれば区だってその会計で準備をしています。そういった意味で一日も早く。区の人たちは待っているんです。この辺の町長の優先順位はどういうふうにしてやっているかということと、それから、この新港湾、先ほどの、昨日の伊豆トレイルジャーニーですか、ああいった形で新港湾は、港湾ですから県の管理ですけれども、莫大な金で、松崎からも相当な負担金が入っているわけです。

今現在は、本当の宝の持ち腐れ、あそこを公園化して釣り堀的なこともやっていますけれども、そういったことはいいんですけれども、抜本的に・・・、観光も低迷しています。そういった形で、前の契約ではフェリーポート出ていましたけれども、その辺の活用の仕方ですね。宝の持ち腐れではしょうがないと思うんです。その辺を含めて、2 点ほどお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 優先順位といいますのは、区からいろいろ出てくるわけですが、一番できる可能性のあるものから優先順位を付けていくと、それで、いろいろ・・・、だけど、区長さんから出てくるわけですから、町としてちゃんとできること、できないことをちゃんと言いまして、できることから優先順位を決めていきたいと思っています。

そして、新港湾の方ですけれども、いまフェリーとかといってもなかなか厳しいわけですね

れども、私は、まつぎき荘にいますと、自転車に乗っていきまして、かなり散歩の方が来て、まつぎき荘の所でUターンをして帰るわけですが、新港湾へ繋げる遊歩道みたいなものができないのかなと思って、いろいろ考えています。そうすると、あそこへ繋がれば、いろいろな散歩のお客さん、また、まつぎき荘に泊ったお客さんたちも新港湾の方に行けると思っていますので、そのようなことで活用を図っていきたく思っているわけですが、なかなか津波の関係とか、環境省の方でジオパークの関係でなかなかいかないわけですが、松崎新港をこれから本当にうまく使っていくというのが、本当に大変なことですが、町として真剣に考えていきたく思っているところでございます。

- 産業建設課長（菊池三郎君） 町長が答弁をしていることで、ほぼ足りているのではないかと思いますけれども、私どもは地区から上がってくる要望につきましては、早く取り組むということを中心に考えて予算取りをしているところでございます。

そんな中で、町長も答弁しておりますけれども、取り組むに当たって諸問題のないことが、我われにとっては・・・、こんな言葉を言っているのかどうか分かりませんが、仕事に取り組みやすいということがあろうかと思えます。その問題を解決していかなければならないものについては、予算的にも時間がかかると、そういうものが解決した後に予算化をして、取り組んでいくという考え方で進めております。

- 2番（福本栄一郎君） 総括ですから、今度は視点を変えて。建設に限らず特別会計の水道・温泉もそうですけれども、いわゆる技術屋の養成ということも、私はよく一般質問でも出していますけれども。この予算書を見ても、もう工事費よりも委託費が上回っているような状態。工事費が40ならば、委託費は60くらいのような感じなんです。すべて委託で出して設計を組んで工事をやる。そうすると、非常に、お金がどれだけあってもいけないと思うんです。

ですから、私が言っているように、いわゆる技術屋の養成、これが今の職員をまた新たにまた来年度、25年度に採用すると思うんですけれども、こういったことになると、技術屋の養成になると、一朝一夕にはいかないんですよ。5年、10年かかってきます。それはやはり経験させて技術屋を養成する。あるいは一番早いのは、ヘッドハンティングですか、30代、40代の若手を引き抜くという、それによってこの町を、技術屋を固めなければ、こういった委託費がどんどん、どんどん上がってきます。実際の工事ができなくなる。

全国的に見ますと、東北の大震災が起きても、工事が遅れて、国家予算が消化できていない。50パーセント未満だと。今日で丸二年ですよ。

なぜかと言うと、資材不足だとか、人出不足、これじゃないんですよ。実際は、市役所の職員

の技術屋がいない。人間がいないから、国家予算が消化できていないですよ。補正予算もつきましたね。今度は当初予算の審議を国でもやっていますけれども。そちらはまた別としても、このせっかく付いた復興予算が消化できない。なぜかと言うと、技術屋がいない。人手がいないということなんです。国に対しても補助金交付申請もみんなやらなければなりません。現場に行っ
て、査定を受けて、設計を組んで、それから国へと上げていく、それではじめて、ゴーサインが出れば着工になります。そのあとですよ。資材不足とか、労務関係の人が・・・、それよりも前に市役所としても、市町村役場でも技術屋がいないために国の予算が消化できていない。この辺が松崎でも同じことがあるんですよ。

何でも委託。いつ来るかわからない南海トラフの地震で。そういったために技術屋を養成する
という形は、考え方はないでしょうか。

○副町長（松本忠久君） 福本議員の言われることはいちいちごもっともかと思いますが、
実は、25年度、福本さんの意見も踏まえて県との人事交流を計画しておりまして、私どもの方
は県の方にぜひ技術屋を派遣してくれないかというような要請もしたわけでございますけれど
も、あの技術屋集団をもっている県でさえ、それだけの余裕はございませんというような状況
でございます。

それで、町としても、以前に技術部門ということで、職員の募集をかけたことがございま
すが、なかなか技術屋さんには来てくれないというのが実態でございます。

それで、生え抜きの職員を県とか、そういったところへ派遣して、勉強させてということもあ
るわけですが、現状、なかなかそれだけの職員体制、数の中で余裕がないというのが実態でござ
います。そういうことで、いきおい、専門職が確保できないということから、そういった部門に
ついては、委託でやらざるを得ないというのが実態でございますので、ぜひその辺もご理解を
いただきたいと思います。

○2番（福本栄一郎君） 募集も町のホームページとかじゃなくて、専門学校へと手紙を送ると
か、短期大学、大学のいわゆる工学系へと送る、その辺も積極的に打って出たらどうですか。そ
の辺の考えをお願いします。

○副町長（松本忠久君） いまインターネットだけじゃなくてということでございますけれども、
なかなかそういった工学部あたりに行って募集をかけても、こういった片田舎へはなかなか来
てくれないというのが実態でございますので、インターネットではだめだと言いますが、
インターネットに載せますと、結構京都、大阪、あっちの方からも試験を受けに来る。一次試験
をパスすると、二次試験まで来るわけです。そういう状況ですので、もし松崎町で働きたいよう

な技術屋さんがあれば、たぶん応募してくると思うんです。その辺も不熱心になっているわけはありませんので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

○5番（高柳孝博君）　いまトレイルジャーニーのお話が出ておりますが、私も若干トレイルジャーニーの方に携わっていたわけですが、この場をお借りいたしまして、行政の皆さま、全国から来ていただいたボランティアの方、走っていただいた選手の方々に感謝したいと思います。

今日は全体的な質問ということですので、全般的にお話をさせていただきたいと思いますが、走った選手は本当に素晴らしかったと思います。新聞等でも皆さんご存知だと思いますが、そのほかに全国から来ていただいたボランティアの方、地元の方だけではありません。地元の方はもちろん来ていただきました。それも70歳を過ぎた方もボランティアの中で来ていただきました。そして、行政の方、警察、消防、そして、森を管理している方々、道路を管理している方々、すべての方々が本当に自分から進んで参加していただいたわけですから、まさに何かものを進める時には、人づくり、本当に人が大事だなというふうに思ったわけでございます。

そして、今回の大会では、走った方だけではなくて、宿泊に携わった方、あるいは食料を提供していただいた方、すべての方々が動いていただきまして、本当にそここのところは素晴らしかったと思うわけでありますが、そして、その人々が動くためには、私は今回非常に大事なことがあったのは、一つは、情報だったのではないかと考えております。

選手を募集するのもホームページに載せただけです。ホームページのほんの一部です。あるいは雑誌のほんの一部です。しかし、たった1日で募集が締め切られてしまうようなことが起きてくるわけです。情報の大事さというのは、もう言わずもがなですが、一つは、情報があっても使えなければいけない。使うためにはどうするかということでございます。

町の方の情報に対しては、住民の方も情報については、あまり重要性というのをアンケートの中では重要性というようにみていないようですが、実は、私は情報というのは非常に大事だと思っています。以前から申し上げておりますが、今回の予算の中では、設備、インフラ整備と言ってありますが、調査、そういったところのハード。ソフトもあるでしょうが、そのあたりの整備というのがあるんですが、実は情報というのは、発信するだけではなくて、受け手が非常に大事なわけです。情報を受けるような状態になっていなければ発信しても情報が使えない。そういうことが起きるわけでございます。

一つは、情報の受け手ですね。今回はメールとかホームページを使っているいろんなことをしたわけですが、届かない方がたくさんいらっしゃいます。そして、残念ながら、全国の方はお手紙とか何かを差し上げなくても集まっていたわけですが、町内の方などにはやはりお手紙

とかを差し上げないと届かないという方がいらっしゃるわけですね。そういう意味で、手紙を使わせていただいて、ご連絡させていただいたわけですが、そういったわけで、情報の受け、情報のリテラシーということをやはり考えていかなければならないと思うわけです。そのあたりのリテラシーのやり方、一つは、生涯学習の塾を増やすとか、そういったようなことが出ているわけですが、情報に関してのリテラシーの向上というのをどのように考えていますでしょうか。そのあたりはいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） すみません。リテラシーということをもうちよっと詳しく説明願えないでしょうか。

○5番（高柳孝博君） 情報リテラシーというのは、要は、情報をどういうふうに扱えるか、情報を扱う能力ですね。情報を扱う能力というのは、情報を発信する力もあるでしょうし、情報を受信する力もある、そのためにはハードウェアを使う力も必要でしょうし、ソフトを理解して使う力も必要、そういったものを含めて情報リテラシーと言っていると思います。

○町長（齋藤文彦君） 高柳さんの言うことは本当にわかるわけですがけれども、なかなか難しいところがあるのかなと思っていますので、そういうことを本当に今は情報社会ですから、そういうことを勉強しながらやっていきたいと思っています。

○総務課長（金刺英夫君） 町からの情報の発信につきましては、私ども総務課の担当としまして、町内放送、回覧等々を使って行っています。それらを補足するものとして企画観光課の方でホームページで周知しているわけですが、やはり町内にも高齢者の方が大変多くいらっしゃるというようなことで、必ずしもいま言われたそういったハイテクといいましょうか、パソコンとかそういったものを持っている方ばかりではないということを考慮しますと、従来からのやはり回覧板とか、そういったものがやっぱり町民への情報発信として貴重なものかなというふうな形で理解しております。

そういった中で、私どもの方としましても、区長さん方を通じて回覧等をお願いするわけですが、そういった負担も極力減らすような形で、月に2回にまとめて町からの情報発信は行わせていただいております。それプラス月一回の広報ですね。あとは、随時イベント等につきましては、広報まつぎきを使って定時放送でお知らせしているというような状況でございます。

○議長（斉藤 重君） 暫時休憩します。

（午前 9時55分）

○議長（斉藤 重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時20分）

○議長（斉藤 重君） 質疑を続けます。

○10番（鈴木源一郎君） 財政、総務課長にお聞きします。

まず、津波避難タワーが6000万円で1基計上されているわけですが、この財源です。全額自主財源ということですが、国県の補助なり何なりの対応が・・・そこらの事情、これは海をもつ町村しかないわけですから、そういう面では一定の国県の助成が当然必要だというふうに思いますので、そこら辺の関わりを。

それから、同じ総務課長に・・・、基金ですね。基金を本予算では、基金を有効活用するという事で、かなり大幅に特に財調の取崩しをして対応しているというわけですが、場合によっては、これは当然必要なわけですが、そのための基金ですからね。

いま町はデフレ不況が深刻で、行政がそれを打破する積極的な対応が求められているわけですが、この基金取崩しの4億1116万円という中には、21世紀の森基金ももちろんありますが、21世紀より主に財調ですね。この基金取崩しの狙いといいますか、理由といいますか、事業に対して財源が不足するから足していくということが起こるわけですが、基金は。どういう意味合いか、その説明をいただきたいと思います。

もう一つ、やっぱり総務課長にお聞きしますが、先ほど答えていましたが、ラスパイレスといいますか、職員の給与費の関係でお聞きしますが、知事会は交付税や何かで圧力的に市町村に、国家公務員よりも地方の方が高いんだということでは、そうじゃないんだというのが、反発が当然知事会の意向のわけですが、町長、これに対して、どういうふうな認識を持っておられるのですか。

私も国家公務員の方が給与は高いけれども、ラスパイレスの比べ方が非常に恣意的で、ラスパイレスによっては地方公務員の方が高いじゃないかというふうになっちゃうわけですね。だから、「それはうそだよ。実際からみれば」ということが知事会の主張の背景にもあると思うんですよね。そこら辺の見解を少し説明いただきたいと思います。

○総務課長（金刺英夫君） まず、1点目の避難タワーの財源のことになるかと思いますが、以前もちょっとお話したかと思いますが、今回6000万円の工事費、委託料といたしまして、設計監理等々、それから、敷地の購入費等を含めまして7830万円の総額になるわけですが、この内の2000万円を県補助金でみております。2000万円というのは、大規模

補助金の3分の1の補助で、6000万円を限度としておりますので、県の方ではこれを撤廃するとかという議論もされておりますけれども、現時点では要項の中の6000万円を限度の3分の1ということで2000万円ほど計上させていただいております。

それから、それ以外の財源といたしまして、当然起債を充当しておりますし、また、12月補正でしたか、公共施設整備基金を積み立てさせていただいておりますので、そちらの基金の一部取崩し等々を行いまして、今回の財源を確保しております。

ちなみに、起債の関係につきましては、防災対策事業債を充てておりまして、充当率が75パーセント、交付税算入率30パーセントというところで対応しております。

それから、基金の関係でございますが、今回かなりこういった投資的経費を増やさせていただいておりますので、それらの財源というふうな意味合いも当然ございます。

今回、全基金の内から4億1116万円取崩させていただいております。その中には、ただいまの避難タワー、それから、デジタル無線とか、同報無線、庁舎の電源の関係、あるいは文教施設整備基金からは、学習センターの修繕に伴います取崩し等々で4億1116万円というふうな状況のものでございます。

それから、ラスパイレス指数の関係でございますが、先ほどもちょっと説明をしましたけれども、国が減額前につきましては、当町は96.4で、国が減額した現在を100として比較しますと、当町は104.3という形で逆転しているという状況でございます。

国が減額しておりますのは、今回震災復興というふうな目的の中で減額しておりますので、これはすぐにまた戻るわけでございますけれども、それが戻りますと、また従来の方、96.4というようなラスパイレス指数に戻るかと思っております。

そういったことを踏まえますと、現状のこのラスパイレス指数はおかしくはないかと言われても、ラスパイレス指数の母体、調査母体自体が国とこの小さな町ではかなり違ってまいりますので、一概にそれが間違っている、間違っていないというようなことを言われても、ちょっと私どもの方もなんとも返事のしようがないわけでございますが、現状としまして比較するものといえば、この指数しかございませんので、これで対応していくしかないのかなど、この指数を基にさまざまな判断をしていく以外現状では方法がないというような形で理解をしております。

地方6団体につきましても、今後こういったことの改定がないような形で願いたいという形で要望書を出しておりますので、そういった地方6団体の姿勢と歩調を合わせていくような形で今後なろうかと思っております。

○町長（齋藤文彦君） ラスパイレス指数というのは、一つの指標ですので、町長会等で話し合うことになると思います。

○10番（鈴木源一郎君） 最後のラスパイレス指数ですけど、確かにデータではもちろんあるわけですけども、この間いろいろな解説書などでも比べ方が非常に恣意的で、違った指数が出るというわけで、だから、そういう点での対抗するような指数というのは出されていないのかもしれませんが、どうも恣意的だということで、実際は違うんだというふうなことが知事会などの主張の背景にあると思うんですよ。

ですから、そのことについてどういう判断、認識を持つかというのが、町長に答えて欲しいと言っていることで、知事会の言っていることがやっぱり実際からみれば正論だと思うんですが、そこをぜひ答えていただきたいと思います。

○副町長（松本忠久君） 議員がおっしゃるラスパイレスにつきましては、国の国家公務員が何千人いるかわかりませんが、それと松崎町の90人と比較するわけですから、そんなにピッタリ合うというところはなかなか難しいと思うんですね。

しかも、5年刻みで対比していくと、5歳刻みで。そういうところですので、たまたま、国の方は人数が多ければ、均等、大体平均値は出るわけですが、町の場合は、5年刻みでいくと全然職員がいないところがあったり、固まっているところがあったりというようなことで、その動きによって多少ブレが生じるというようなところがありますので、パーフェクトではないと思いますけれども、一点の指標ですので、これは毎年毎年比較していくわけですので、間違いだとか、そういったことはないと思います。一つの見方としては、物差しとしては、それはそれで評価するところはあるのではないかと思います。

○10番（鈴木源一郎君） 副町長、その数字、ラスパイレスが間違いだと言っているんじゃないです。それはその数字としてあるわけですから、現に。

しかし、そういう比較が違うんじゃないか、実態とは。違うんじゃないかというのが地方の声だと思うんですね。

それに基づいて交付税を減額するというふうにするという、交付税という本来の自主的な財源に手を付け、国が干渉すべきではない部分の給与に意見を出してくるということを含めて知事会は問題ありだというふうに言っているんだと思うんですね。

そのこと自体についての考え方、認識としてはどうなんだというふうに聞いているわけですけど、どうですか。もう一度。

○副町長（松本忠久君） 私どもは知事会の中に入って議論したことがありませんので、その中

身についてはちょっとよくわからないわけですがけれども、東京都の職員も地方公務員、松崎町の職員も地方公務員ですので、それはいろいろ結構差があると思うんですね。

そういうことからして、それがすべてだと言われるとちょっとどうかなという部分もあるわけですがけれども、ただ、そういう指標がほかにはないわけですよ。それに代わるものが。でありますので、それはそれで一つの物差しとしてみていくということについては、それはそれでいいのではないかと思います。

○議長（斉藤 重君） ほかにございませんか。

○1番（藤井 要君） 今の関係ですけれども、町長の考えを伺いたいですけれども、地方交付税は地方固有の財源だと、地方公務員の給与は地方で決めると書かれているみたいですが、町長はこれに対して、地方公務員法に抵触しかねないんじゃないかというような批判もあるみたいですが、その点に関して、町長はどう思いますか。町長の考えを。

○副町長（松本忠久君） 町の職員の給与はその所属する町が決めるわけですので、条例をもって決めるわけですので、それはそれでやるわけですが、一律にどうするかということについては、まだ町長会の方でも話し合いがもたれておりませんので、今後議論をする中で、どう対応していくかということについては、考えていくようになると思います。

○1番（藤井 要君） それでは、町長は、町長会とかで決めて、自分の考えはここでは申し述べられないということでもよろしいですね。そういうことですね。

○町長（齋藤文彦君） 町長会等で話し合っていきたいと思っています。

○1番（藤井 要君） あまり追求することもできませんので、やめますけれども、もう1点、観光の関係で、前にこれは、台湾とかの修学旅行の関係がありましたよね。今回の予算的には、そういうのがまだ載っていない。

2～3カ月前かな、台湾がどこかに来ているなんてちょっと新聞で目にしたんですけれども、教育長が前に「台湾大丈夫だ」なんて言いましたけれども、その後の様子はどうですか。松崎町は。

○企画観光課長（山本 公君） 去年、今年でしたか、外国人の関係の予算が観光の中にとってあったかと思います。観光協会の方をお願いをしまして、多言語のパンフレットを作成をしたり、DVDみたいなものを作ったりというような形でやらせていただきました。

25年度の予算にはないわけですが、県の観光の中で、そういう部分、外国人おもてなしみたいな部分の研修みたいなものがあったり、あるいは去年、岩地でしたかね。台湾の教育旅行の関係の方が現地を視察したりしているわけですが、これは県の方で、静岡県の中に

連れて来て、見ていただいたというようなことがございます。

そういうものを活用して、そういった外国の関係の誘致の関係も取り組んでいきたいというふうに考えております。

いろんな対日本との関係で、いろいろ観光客が中国とか、韓国とか、減っているような状況がございますけれども、県の方のそういった事業の中に参加をしたりして、そういうものを進めていきたいと思っております。

美術館と重文の方でも多言語のパンフレットなんかも作って、活用していくというようなこと・・・もう作ってありますけれども、そういうものを使って活用していくというようなことで考えております。

○1番（藤井 要君） パンフレットは昔からあって、なかなかばらまいていないで、いっぱいたまっていましたけれども。これは、県なんか積極的にやっているかということで、回答願いたいですけれどもね。ただ、県ではそういうことをやっているということではなくて、松崎町が県にどういうアプローチをしているか。そういうことでお願いします。

○企画観光課長（山本 公君） 県のやっているものに参加をしたいと思います。県の方に要請をして、そういうおもてなしと言うんですかね。外国人対応の研修なんかもこっちでやってくださいみたいな働きかけはこれまでもやってきておりますし、そういうことは今後も続けていくことでございます。予算上はここの中には取ってありませんけれども、県への働きかけは積極的にしていきます。

○議長（斉藤 重君） ほかにございませんか。

○2番（福本栄一郎君） この予算の別冊を見ますと、いわゆる性質別の経費で、特に災害復旧費が800万円で0.2パーセント、投資的経費ですよ。それに絡めてなんですけど、こちらの予算書の8ページを見ますと、前にも言ったことがあると思うんですが、町民税が今年度2億4500万円、固定資産税が3億4500万円で、比較すると1億円町民税の方が少ないですよ。これは各町村の経済活動のバロメーターだと思うんです。本来ならば、町民税が固定資産税を上回らなければいけない。なぜかと言うと、仕事がない、若者がいない、裏返しだと思うんです。この辺を町長にお伺いしますが、この松崎の産業、この性質別の円グラフを見ましても、投資的経費が14.5パーセントですよ。

この辺が町長の政策的な意味があるんですよ。あとは、義務的経費、消費的経費、これは当然でなければならぬ。この辺に絡めて、町長の25年度に向かった産業の振興、それによって、町民税を増やしていくという、その辺のお考えを1点だけお伺いします。

○町長（齋藤文彦君） 本日に観光と農業の振興というのが本当に大切なことだと思っています。松崎町は、なかなか大きな産業がありませんので、第6次産業というような形に進まざるを得ないと私は思っています。

だけど、松崎町内に大きな業者がいれば、役場が、行政がハープをやったら、これを使ってうまくやろうかという業者が出てくればいいわけですがけれども、農地再生協議会でやっても、JAさんとか、農林事務所さんが出ているわけですがけれども、事務局は役場でやっているわけで、なかなか非常に産業が6次産業化に進まないわけです。

それで、私が「最も美しい村」連合に参加したいと思っていますのは、「最も美しい村」連合にはたくさんの企業が入っています。その企業がいろいろな6次産業化の手伝いをしてくれると、こちらが熱意があればですがけれども。そのようなことを聞いていましたので、「最も美しい村」連合にも入ったところでございます。

ただ、産業の振興ということは、本当に大切なことだと思っていますので、福本議員も昔役場でならしたわけですから、いろいろなアイデアがあつたら、ぜひ提供していただきたいと思ひます。

○議長（斉藤 重君） ほかにございませんか。

（発言する者なし）

○議長（斉藤 重君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（斉藤 重君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

○10番（鈴木源一郎君） 私は本案に反対いたします。本案は、活力と安らぎ、感動のある町をつくっていくんだということで、展開を、柱を立ててやっているわけですが、それぞれ大変苦勞をした作品だということは大いにわかるわけですが、しかし、この5本の柱の中にも産業の盛んな町にするんだというスローガンがあるわけですが、これ一つを見ましても、ここを出して説明しているように、この5年くらいの中に3万5000人からの入込客が減少したということに対して、これを打開していかなければならないということは掲げてあるわけですが、本予算を見ておりましても、どうも視界がはっきりしたというようなことが感じられないというような

ことで、本案全体にはいろいろ努力は、評価はもちろんするわけですがけれども、この予算が実行されれば相当上向きになってくるとは言えないのではないかというふうに感じますので、私は本案に反対であります。

○議長（斉藤 重君） 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○7番（関 唯彦君） 議案第28号 平成25年度松崎町一般会計予算に対して賛成をいたします。

分担金、それから、寄附金の問題はあります。いろいろわずかではありますけれども、問題もあるところもありますけれども、防災や福祉、また地域活性化などいろんな問題で、この一般会計は滞ってはならない予算だと思っております。そんな関係から、議員から出た意見を考慮して、この予算を運用していただくことを要望して賛成をいたします。

○9番（稲葉昭宏君） 私は本案に賛成をいたします。賛成をするとともに、少しお願いも含めて、賛成をしたいと思います。

トレイルレースの話が先ほどいろいろ出ましたけれども、私は、今回のこのトレイルレースで大きなヒントがあったと思います。一つには、やはり職員の意識改革、そういう・・・、どういふことかと言いますと、ぼくは朝行ってみて、役場の職員が一生懸命みんな頑張っている。こういう姿こそがやはり職員の中からやはり町に頑張っていこう、あるいは町のために尽くしていこうという、そういう公僕的な精神というか、そういうものをおこさせるというかね。

もう一つ、やはりああいう行事をやるということが、いかに町に対していろいろの関係で話題をまく、そういうことで住民の意識をも改革していくんじゃないかな。それは、一つは、小さな動きですけれども、町長がいつも言っているように、蔵らにそれが一つの現象として現れる。

だから、予算を全部いろいろ見ますと、町長は最後の任期ですけれども、政策的な、これはというものは実際あまりない。しかし、それを執行するにあたって、これは今回トレイルレースは大きなヒントを与えてくれたと思います。これだけの話題性をもって、そして、やっていくということは、例えば、商店街の通りなんかは、たまたま新港湾から出発ですけれども、あれがこれから長い間やっていくのに、ああいうイベントをやった時に、例えば、あれだけの人数が商店街の中を通るといふことになれば、商店街の衆もそうそうシャッターを閉めてはられないよという一つの雰囲気にもなる。だから、そういうことも常に心がけて予算を執行する。

そして、町長一人だけじゃなくて、やはり職員も巻き込んでいく、そうするとやはり職員の中に・・・、やっぱり人間というのは、働いていて、会社もそうですけれども、ただ行って給料をもらっているだけじゃ人生つまらないわけですよ。やっぱりそこに生きがいを見出して、自分の

職場に生きがいを見出す。

我われ民間は、儲ける、金儲けが商売ですから、いかに儲けてということも一つの生きがいに
つながるんですけど、やはり役場の職員の衆は、やはり町のために何かをしようということ
が、これが大きな生きがいの原動力になる。そういうことが結集してやはり町が元気になって
いくと。

そらの意識改革ということをぜひ町長がそういうことを発信していただきたい。予
算を執行するにあたって、そういうことも要望して、本案に賛成いたします。

○議長（斉藤 重君） これをもって討論を終了いたします。

これより議案第 28 号 平成 25 年度松崎町一般会計予算についての件を挙手により採決いた
します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手多数）

○議長（斉藤 重君） 挙手多数であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。
